



平成29年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年11月11日

上場会社名 デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3916 URL http://www.ditgroup.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 市川 憲和
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員経営企画本部長兼経営企画部長 (氏名) 有地 正光 TEL 03-6311-6532
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年6月期第1四半期の連結業績（平成28年7月1日～平成28年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第1四半期	2,379	4.0	135	△3.1	135	△3.9	87	△5.6
28年6月期第1四半期	2,288	—	139	—	141	—	92	—

(注) 包括利益 29年6月期第1四半期 90百万円 (△3.8%) 28年6月期第1四半期 94百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第1四半期	11.55	11.28
28年6月期第1四半期	12.75	11.98

(注) 1 当社は、平成27年6月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成28年6月期第1四半期の前年同四半期増減率については記載しておりません
 2 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年6月期第1四半期	3,184	1,965	61.7
28年6月期	3,225	1,957	60.7

(参考) 自己資本 29年6月期第1四半期 1,965百万円 28年6月期 1,957百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期	—	0.00	—	24.00	24.00
29年6月期	—	—	—	—	—
29年6月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成28年6月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。なお、平成29年6月期の配当予想は未定です。

3. 平成29年6月期の連結業績予想（平成28年7月1日～平成29年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,012	7.2	570	8.7	558	1.1	360	2.6	46.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当該株式分割後の発行済株式数（自己株式数を除く）により算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年6月期1Q	7,589,910株	28年6月期	7,537,910株
② 期末自己株式数	29年6月期1Q	190株	28年6月期	190株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年6月期1Q	7,562,350株	28年6月期1Q	7,255,632株

（注）当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2016年初頭から進んだ円高傾向が継続している中で、鉱工業生産や輸出に持ち直しの傾向が見え始めており、製造業企業業績の悪化に歯止めがかかりつつあります。こうした点から景気全般については、横ばい圏で推移しているものの、一部に持ち直しの兆しが見られる状況にあります。

当社が属する情報サービス産業においては、引き続きIT人材不足という課題を抱えながらもIoT(*1)、ビッグデータ、AI(*2)、FinTech(*3)等の新分野に対する期待感も強まり、引き続き市場は堅調に推移しました。また、情報漏洩やセキュリティ事故が相次いでいることから、IoTを含め情報システム全体のセキュリティ対策には高い関心が寄せられています。

このような環境の下、当社グループでは、中期経営計画として次の「5つの事業戦略」を掲げ、積極的な取り組みを継続しております。

- ・リノベーション（既存事業の改革による経営の安定化）
- ・イノベーション（自社商品を軸とした新しい価値創造）
- ・競合から協業へ（協業による事業拡大）
- ・開発からサービスへ（サービス視点での事業拡大）
- ・人材調達・人材育成（採って育てる）

平成29年6月期は、中期経営計画の2年目として、「事業基盤の安定化」と「成長要素の強化」に取り組んでおり、成長が見込まれる事業基盤に対して経営資源を集中すると共に、自社商品全般において開発・販売体制の強化を進めております。

こうした取組みの中で、「リノベーション」については、前年度に引き続き、金融機関の情報化投資、自動車関連業界の設備投資の増加に伴い、売上の9割を占めるソフトウェア開発事業全体では順調な伸びを示しましたが、コンピュータシステム販売事業は環境変化への対応が遅れ、売上、営業利益共に前年同四半期実績に届きませんでした。

「イノベーション」については、独自技術による自社商品であるWebセキュリティソリューション「WebARGUS：ウェブアルゴス」(*4)およびExcel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos：ゾブロス」(*5)の商品力拡充の取組を進めると共に、販売面では直販および販売代理店との協業に注力しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高2,379,184千円（前年同四半期比4.0%増）、営業利益135,596千円（前年同四半期比3.1%減）、経常利益135,683千円（前年同四半期比3.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は87,311千円（前年同四半期比5.6%減）となりました。

(*1) IoT (Internet of Things：モノのインターネット) とは、コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々なモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うことをいいます。

(*2) AI (Artificial Intelligence：人工知能) とは、人工的にコンピュータなどで人間と同様の知能を実現させようという試み、或いはそのための一連の基礎技術を指します。

(*3) FinTech (Finance Technology：フィンテック) とは、情報技術 (IT) を使って金融サービスを生み出した、見直したりすることをいいます。

(*4) Webセキュリティソリューション「WebARGUS (ウェブアルゴス)」は、ウェブサイトの改ざんを発生と同時に検知し、瞬時に元の正常な状態に復元できる、新しいセキュリティソリューションです。改ざんの瞬間検知・瞬間復旧により、悪質な未知のサイバー攻撃の被害から企業のウェブサイトを守ると同時に、改ざんされたサイトを通じたウイルス感染などの被害拡大を防ぎます。

(*5) Excel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos (ゾブロス)」は、Excelベースの非効率な業務を自動化します。これにより、短期間で劇的に業務を効率化することができます。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益（営業利益）及びセグメント損失（営業損失）は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

①ソフトウェア開発事業

ビジネスソリューション事業分野においては既存顧客を中心とした受注が引き続き順調に推移しました。

エンベデッドソリューション事業分野は、車載機器関連が順調な伸びを示したものの、スマートフォンを中心とするモバイル関連の落ち込みをカバーしきれず、前年同四半期実績に僅かながら届きませんでした。

自社商品事業分野は、各種営業施策により、引き続き順調な伸びがありました。

これらの結果、ソフトウェア開発事業の売上高は2,209,472千円(前年同四半期比6.1%増)、セグメント利益(営業利益)は136,715千円(前年同四半期比19.9%増)となりました。

②コンピュータ販売事業

カシオ計算機株式会社製中小企業向け「楽一」を主力とする販売ビジネスにおいて、当事業年度より対象マーケット拡大を狙った新たな営業施策を進めてきましたが、当第1四半期連結累計期間は苦戦を強いられました。

この結果、コンピュータ販売事業の売上高は171,920千円(前年同四半期比16.9%減)、セグメント損失(営業損失)は1,877千円(前年同四半期は営業利益25,211千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

①流動資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ41,314千円減少し、2,452,133千円となりました。これは、主に現金及び預金が167,959千円減少し、受取手形及び売掛金が33,019千円、商品が9,695千円及び仕掛品が52,004千円それぞれ増加したことによるものです。

②固定資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ66千円増加し、732,567千円となりました。これは、主に有形固定資産が2,440千円減少し、無形固定資産が2,439千円及び投資その他の資産が67千円それぞれ増加したことによるものです。

③流動負債

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ47,673千円減少し、887,820千円となりました。これは、主に買掛金が25,446千円及び賞与引当金が108,141千円それぞれ増加し、未払法人税等が81,337千円及びその他の負債が99,924千円それぞれ減少したことによるものです。

④固定負債

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ1,624千円減少し、331,475千円となりました。これは、主に長期借入金が8,202千円、その他の負債が1,973千円それぞれ減少し、退職給付に係る負債が8,551千円増加したことによるものです。

⑤純資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ8,049千円増加し、1,965,404千円となりました。これは、主に資本金が3,900千円及び資本剰余金が3,900千円それぞれ増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年8月12日に公表いたしました通期連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,096,432	928,472
受取手形及び売掛金	1,250,861	1,283,880
商品	15,745	25,441
仕掛品	88,358	140,363
その他	63,677	95,498
貸倒引当金	△21,627	△21,523
流動資産合計	2,493,447	2,452,133
固定資産		
有形固定資産	235,437	232,996
無形固定資産	30,916	33,355
投資その他の資産		
その他	478,751	478,789
貸倒引当金	△12,604	△12,574
投資その他の資産合計	466,147	466,215
固定資産合計	732,501	732,567
資産合計	3,225,949	3,184,700
負債の部		
流動負債		
買掛金	242,382	267,829
1年内返済予定の長期借入金	32,808	32,808
未払法人税等	164,702	83,364
賞与引当金	—	108,141
その他	495,601	395,677
流動負債合計	935,494	887,820
固定負債		
長期借入金	37,610	29,408
退職給付に係る負債	285,975	294,526
その他	9,515	7,541
固定負債合計	333,100	331,475
負債合計	1,268,594	1,219,296
純資産の部		
株主資本		
資本金	437,181	441,081
資本剰余金	443,239	447,139
利益剰余金	1,120,771	1,117,630
自己株式	△457	△457
株主資本合計	2,000,734	2,005,393
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△129	△244
為替換算調整勘定	1,887	1,755
退職給付に係る調整累計額	△45,138	△41,499
その他の包括利益累計額合計	△43,379	△39,988
純資産合計	1,957,354	1,965,404
負債純資産合計	3,225,949	3,184,700

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)
売上高	2,288,673	2,379,184
売上原価	1,760,459	1,830,613
売上総利益	528,213	548,571
販売費及び一般管理費	388,220	412,975
営業利益	139,993	135,596
営業外収益		
受取利息	179	2
受取配当金	—	15
受取手数料	1,247	997
助成金収入	670	—
受取保険金	—	1,000
その他	781	687
営業外収益合計	2,878	2,701
営業外費用		
支払利息	815	396
為替差損	519	927
保険解約損	—	994
その他	319	295
営業外費用合計	1,653	2,614
経常利益	141,218	135,683
税金等調整前四半期純利益	141,218	135,683
法人税、住民税及び事業税	79,437	73,565
法人税等調整額	△30,752	△25,192
法人税等合計	48,684	48,372
四半期純利益	92,533	87,311
親会社株主に帰属する四半期純利益	92,533	87,311

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)
四半期純利益	92,533	87,311
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△817	△115
為替換算調整勘定	△134	△132
退職給付に係る調整額	2,721	3,638
その他の包括利益合計	1,769	3,390
四半期包括利益	94,302	90,701
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	94,302	90,701

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	コンピュータ販 売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,082,208	206,465	2,288,673	—	2,288,673
セグメント間の内部売上高又は振替高	696	437	1,133	△1,133	—
計	2,082,904	206,902	2,289,806	△1,133	2,288,673
セグメント利益	114,022	25,211	139,234	759	139,993

(注)1. セグメント利益の調整額759千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	コンピュータ販 売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,207,814	171,370	2,379,184	—	2,379,184
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,658	550	2,208	△2,208	—
計	2,209,472	171,920	2,381,393	△2,208	2,379,184
セグメント利益	136,715	△1,877	134,837	759	135,596

(注)1. セグメント利益の調整額759千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。